

2026 年 8 月 7 日

無印良品「インドの古家具」を限定 8 店舗で新発売

インドで長く使われてきた家具を再生し、現代の暮らしへつなぐ



無印良品を展開する株式会社良品計画（東京都文京区／代表取締役社長 清水 智）は、インド各地で長く使われてきた家具を再生し、現代の暮らしに提案する「インドの古家具」を 8 月 14 日(金)より、全国 8 店舗で順次発売します。

良品計画は、「資源循環の推進」や「社会・自然環境に配慮した商品・サービスの提供」を重要なテーマとして掲げ、商品の原材料調達から製造、販売、使用後に至るまでのライフサイクル全体を見据えたものづくりを進めています。

資源循環の取り組みを推進する「ReMUJI」では、お客さまから回収した衣料品や家具などに新たな価値を加え、次の使い手へつなぐ活動を進めています。今回発売する「インドの古家具」も、古家具のリペアを通してその考え方を体現する取り組みのひとつです。

世界には、まだ使い続けることができるにもかかわらず、その価値が十分に生かされないまま手放される家具や道具が数多く存在します。良品計画では、それらを新たな資源として捉え直し、長く大切に使われてきた家具が持つ価値や風合いを生かしながら、丁寧なメンテナンスを施すことで現代の暮らしの中で再び使い続けられる状態へ再生し、次の使い手へつなげています。このたび、その取り組みの一環として、北インドを中心に使われてきた家具を再生した「インドの古家具」を発売します。

■ インドの暮らしの中で受け継がれてきた古家具

インドの古家具は、多様な民族や宗教、気候風土、歴史的背景の中で育まれてきました。特にインド北部などでは、乾燥した気候により木材の保存状態が良く、チーク材を中心とした家具が数多く残されています。また、宮殿文化や交易、植民地時代の影響を受けながら独自の発展を遂げ、彫刻や象嵌※(ぞうがん)、彩色などが施された装飾性の高い家具が生まれました。

良品計画では、こうした家具を現地で選定し、丁寧に、メンテナンスやリペアを施したうえで、現代の暮らしに取り入れやすい形で提案します。

※象嵌とは、一つの素材に異なる素材をはめ込んで模様や装飾を施す伝統的な工芸技法です。



■一点ものの個性を生かし、現代の暮らしへつなぐ

インドの古家具は、地域ごとに素材や意匠が異なり、経年による色合いの変化や使い込まれた風合い、手仕事による装飾など、それぞれが異なる表情を持っています。同じ仕様や形状であっても状態は一点ごとに異なり、それぞれが固有の価値を備えています。良品計画では、こうした個性を単なる使用痕ではなく、長く使われてきた証として捉えています。古家具は一つひとつ状態を確認し、必要なメンテナンスやリペアを施したうえで、日常生活の中で使用できる状態へ整えています。機能面の確認を行う一方で、過度な修復は行わず、経年による風合いや素材本来の魅力は極力残し、その個性を生かしたまま提案します。



◆商品ラインナップ

商品名	規格	税込価格	販売開始日
木製ベンチ	約幅 1 7 8 × 奥行 5 0 × 高さ 9 5 c m	69,900 円	8/14（金） ※各店舗、8/14(金)以降 順次販売開始となります。
木製キャビネット ガラス扉	約幅 7 8 × 奥行 4 0 × 高さ 1 7 6 c m	79,900 円	
木製チェスト	約幅 1 1 0 × 奥行 4 2 × 高さ 1 1 0 c m	129,000 円	
木製チェア ナチュラル	約幅 3 2 × 奥行 3 2 × 高さ 6 5 c m	6,990 円	
木製ミラー	約幅 1 0 × 奥行 3 × 高さ 2 6 c m	3,490 円	
木製スツール	約幅 2 5 × 奥行 2 5 × 高さ 3 0 c m	7,990 円	

※取り扱い商品は店舗により異なります。

※すべて一点ものであり、形状・寸法・状態・価格は商品ごとに異なります。

※数量限定、なくなり次第終了となります。



・取り扱い無印良品店舗

銀座、Found MUJI 青山、池袋西武、直江津、静岡パルコ、富山 Favore、イオンモール橿原、グランフロント大阪

良品計画は、「感じ良い暮らしと社会」の実現に向けて、資源を有効活用しながら長く使い続けられる商品と仕組みづくりを進めています。そして「インドの古家具」を通じて、地域で受け継がれてきた価値や文化を次の世代へつなぐ提案を行っています。

※店舗での古家具の回収は実施しておりません。

報道関係の方のお問い合わせ：株式会社良品計画 広報・ESG 推進部 rk-pr@muji.co.jp